

なる様になる迄だ

「これも、自分の愛する人が作ったものなら、全部食べれる様になるだろう。」と、自分に言い聞かせながら、念入りに箸を入れる。

写真、たくさん、写してもらったが、「さて、皆、くれるかな」と心配だ。

飲み物もガブガブ。
空は大変、晴れている。

フェリーの中は、室内冷房で、丁度いいかげん。

甲板に出たりして、風景を眺める。

彼女が頭から離れない。

一時間ほど乗り、上陸。

バスは雲仙国立公園へと走る。
たいぶ、目が冴えてきたが、まだ、少し眠い。

またもや、山間を大きなカーブと傾斜で進む。

少し、怖い。

しかし、たいぶ、僕も鈍感になって来たらしい。

ぼーとして来たせいもあるが、別にそう重苦しくは、感じない。